

佳作

## え顔で、むねをはこて

鹿児島県 屋久島町立小瀬田小学校四年 小田 咲華

「どうしたの。」

お母さんがびっくりした顔で、私をのぞきこんでいる。その時初めて自分が泣いている事に気づいた。

お祭り前の最後のレッスンの新しいステップとターンのふりつけが上手にできずに、くやしくなみだが出ていた。お母さんや先生と一しよに練習したけれど私の不安は消えなかった。次の日、お母さんがお友だちのスタジオをかりてくれた。何度も何度も、ステップとターンをくり返す。大きながみの中の自分の足元ばかり見ていた。するとお母さんが、

「顔上げて、むねはって、え顔でおどってごらん。」

大丈夫。絶対できるよ。」

と、言ってくれた。足元ばかり気にして下を向いていたけれど遠くを見るようにしておどると軸が通っ

たようにくるっと回ることが出来た。

お祭り本番まで後三日。他に二つのダンスも踊る。一つはお母さんと一しよに。もう一つは去年も一しよに踊ったダンスメイトも一しよだ。それぞれのリハーサルや練習もくり返しいよいよ八月四日の当日をむかえた。

私の出番は夜の七時半、四十五分、八時の計三回。ぶ台うらにお母さんが早着がえ出来るスペースを作ってくれた。十分の間にいしよをかえなければいけないが、じゅんびは整った。直前までふっていた雨で中止になった演目もあり、バタバタとした中で予定の時間をむかえた。お母さんに言われた「むねをはって、え顔で」それだけを心で何度もとなえてぶ台に上がった。最初はお母さんと一しよのヒップホップダンス。大好きな桜ちゃんセンターからのスタート。気持ちの良い風が吹いてまるで私達を後押ししてくれているようだった。

次は、フラダンス。お母さんの作ってくれたいしよに着がえる。レイやポウもつけて皆と一しよにぶ台にのぼった。曲が流れだし顔を上げるとえ顔で私を見ているお母さんが見えた。

「さくは、がんばれえ。」

お母さんやダンスメンバーからの声が聞こえた。ターンもうまくいき最後までえ顔で踊ることができた。最後はスーツのセットアップに早着がえ。手伝わなくているお母さんの目が赤い。

「最後まで楽しんでおいで。」

と見送られぶ台にのぼった。皆とのダンスはいつも楽しい。そんな気持ちで自然と私をえ顔にした。あっという間に終わりまだ踊りたいと思うほど、とても楽しかった。

ダンスやフラを始めてたくさんのお友達が出来、たくさんのお友だちと知り合う事が出来た。それが何よりうれしい。次は文化祭。もっと新しい事にちょう戦出来る事がとても楽しみだ。